

# 事業紹介・事業報告

## 「第24回技術研究発表会」の報告



沼尻 恵子

情報・企画部  
上席主任研究員

### 1. 開催概要

平成22年7月9日（金）に、第24回となる技術研究発表会を、東京都港区ニッショーホールにおいて開催した。以下にその概要を報告する。

#### 1.1 開催の概要

技術研究発表会は、JICEの公益事業の一環として、調査・研究の成果を広く一般の方々へ紹介することを目的として実施している。

発表プログラムは、次頁の通りであり、特別講演や10課題について発表を行った。

当日は、国や地方公共団体、公益法人、民間会社等から延べ約470名の参加があり、会場からも活発な質問がなされた。

#### 1.2 特別講演及び発表された課題

特別講演は、橋梁の意匠設計、疲労設計、リハビリテーションなど、実務の現場をベースとした研究に取り組んでおられる東京工業大学の三木千壽教授をお招きして『橋梁のアセットマネジメントとレトロフィット』と題して行っていただいた。

講演では、高度成長期に建設され50年を経過する橋梁について、鋼橋の疲労と原因について、日本やアメリカ等の具体的事例を交えて解説を頂き、壊れたら直すという場当たり的な「対症療法」をやめ、計画的に「予防保全型」の対応へ転換することや、橋のレトロフィットについて、人間の成人医療と一緒に、点検、診断、措置を適切に実施していくことが大事であるとの示唆に富むお話を頂いた。詳細は本JICE REPORTの巻頭に掲載しているので、是非ご一読頂きたい。

JICE職員が発表した10課題では、自主研究による先進的な成果や、JICE が受託した調査研究成果をもとに独自の視点を取り入れた課題について発表を行った。これら発表課題に関する論文は、JICEのホームページにアップし、またいくつかは本JICE REPORTに掲載しているので、ご参照頂きたい。

次回第25回技術研究発表会は、平成23年7月13日（水）ニッショーホールにて予定している。開催の案内、参加の受付等は、ホームページに掲載予定である。

皆様のご来場をお待ちしております。



写真 会場の様子



写真 JICEの事業概要の報告

## 2. 第24回技術研究発表会プログラム

|                                |  |  |
|--------------------------------|--|--|
| 挨拶                             |  | 理事長 大石 久和  |
| JICE事業概要                       | JICEの事業概要について  | 理事 藤本 保  |
| 特別講演                           | 「橋梁のアセットマネジメントとレトロフィット」  | 東京工業大学教授 三木 千壽氏                                      |
| 国際標準への対応のあり方について               | 設計施工の技術基準類は公共工事の品質確保に不可欠なインフラである。世界ではISO国際標準やユーロコードの本格運用が始まっているが、土木界の国際標準に対する関心は高いとはいえない。本発表では、土木界における国際標準対応の現状等の調査結果について報告するとともに、今後の対応のあり方に関して課題提起を行う。    | 技術・調達政策グループ<br>○芦田 義則（審議役・総括）<br>山田 武正               |
| PPPなど多様な事業実施方式について             | 「国土交通省成長戦略会議」においては「インフラ整備や維持管理への民間資金・ノウハウの活用の中で、PPP/PFIを推進するための制度面での改善」が重点項目として挙げられている。本発表では、これまで道路部門へ適用がなされていないPPP/PFIスキームの適用可能性について、韓国の事例を対象として報告する。     | 技術・調達政策グループ<br>○福田 健（上席主任研究員）                        |
| 『国土教育』の視点から見た社会科教科書の検証と次世代教育論  | 現在我々が享受している豊かで安全な生活は、過去世代の国土に対する絶え間ない働きかけの果実である。従って我々世代も、先人達の努力について不断に学び、将来世代に対してより良い国土を引き継いでいかなければならない。本発表では、『国土教育』の視点から見た社会科教科書の検証を行うとともに、国土教育のあり方を展望する。 | 技術・調達政策グループ<br>○森田 康夫（副総括）                           |
| 小規模な道路等の構造基準に関する最小限保持すべき水準について | 道路の構造基準は、安全性、円滑性の確保と同時に、様々な地域の実情に柔軟に対応できることが望まれる。本発表では、小規模な道路の縦断・平面線形の最小限保持すべき水準について、現地観測、理論的計算、走行実験、これらの組み合わせ等により検討した成果について報告する。                          | 都市・住宅・地域政策グループ<br>○丸山 大輔（上席主任研究員）<br>和田 卓、岸田 真       |
| 山地部幹線道路（甲子道路）の整備効果について         | 甲子峠を含む山地部幹線道路である甲子道路の開通は、交通途絶を余儀なくされていた地域に新たな連絡路をもたらした。本発表では、甲子道路が地域に与えた影響について、開通前、直後、一年後の定性・定量調査結果に基づき、交通量だけでは評価できない山地部幹線道路の整備効果について報告する。                 | 都市・住宅・地域政策グループ<br>○梅津 健司（上席主任研究員）<br>村田 重雄、平澤 哲、秋山 聡 |
| 安心して子育てができる環境整備のあり方について        | 少子化対策の一つとして、次世代を担う子どもを安心して育てることができ環境整備が求められている。本発表では、妊産婦や乳幼児連れに着目した外出時のニーズ・施設整備の現状や課題、乳幼児連れの外出の負荷軽減に資する整備の方向性及び施設整備のポイント等について報告する。                         | 都市・住宅・地域政策グループ<br>○鈴木 圭一（主任研究員）                      |
| 海外における都市再生財源の調達手法について          | 将来の都市象として打ち出されている「集約型都市構造」に向けた都市再生を財政状況が逼迫している中で進めるために、民間資金の活用や公民の連携等の方策が求められている。本発表では、諸外国の都市再生にかかる開発事例の収集分析により、我が国の事業に適用性のある施策や適用に向けた課題について報告する。          | 都市・住宅・地域政策グループ<br>○伊藤 伸一（都市・地域チーフ・リサーチ）              |
| 水害リスクの評価指標及び評価手法について           | 治水施設や流域対策の整備手順ならびに土地の潜在的な脆弱性を評価するために用いる水害リスク指標とその算出方法について検討を行った成果、並びにリスク評価にあたって提案した流下能力並びに堤防構造を考慮した破堤地点の選定および氾濫特性を反映した評価手法について報告する。                        | 河川政策グループ<br>○田村 善昭（主任研究員）                            |
| ダム放流警報システム計画・設計指針(案)の見直しについて   | ダム放流警報システムの見直しに関し、水理・水文資料やダムの運用管理実績の活用、河川利用形態に応じた放流警報のあり方等を検討するとともに、フィージビリティスタディによる検証を行った成果等について報告する。  | 河川政策グループ<br>○菊田 勇平（主席研究員）                            |
| 河川管理における変状検知機器の活用について          | 洪水時の河川管理は、主に目視による河川巡視・施設点検の情報、水位情報等によるが、洪水時の河川は濁水となり目視での把握が難しい。水面下における施設変状の情報を検知する変状検知機器の洪水時の情報提供等における活用や河川管理への適用性評価、配置計画等について報告する。                        | 河川政策グループ<br>○新井 勝明（上席主任研究員）                          |

○発表者

※本プログラムは、土木学会の継続教育（CPD）制度のプログラム認定を受けて実施しました。